

表1. 女子大学の創立及び共学化についての基礎データ(2025年5月時点)

[illegible][illegible]

**専ら女子学生に在る女子大学学生の比率**

大学名	設立年	専ら女子学生に在る女子大学学生の比率 (%)
・私立文学	(1872)	99.965 = 15.17%
・国立文学	(1872)	100.000 = 2.52%
・公立文学	(1894)	82.715 = 2.30%
・合計	[1872]	< 2007 > = 12.57%

専ら女子学生に在る女子大学学生の比率の推移  
（注）専門大学を除く  
（参考）私立文学はPrivateとしない

〔女子大学学生数〕／全女子学生数＝女子大占有率		大学の女性比率(2023年度)				
〔(在学生数)に40を付しているものについては、前年度(2024)の学生数を使用したことを示す〕		設置年	大学	女性	男性	女性割合
(全女子学生数)については、「学校基本調査 令和7年度(速報値)」の高等教育機関「表2 大学の都道府県別学部学生数」を使用)		創 立	62	17	45	27.6
※女子大学学生数に、専攻課程を併とした私立と大学は含まない		開 校	2	1	1	50.0
		合 計	2	0	2	0.0
		全女子大	66	18	48	27.3

女子大学の定員充足率  
私立 89.7%、国立 109.2%、公立 111.6%、全体 90.2%  
\*（※）し、一部大学は2023年10月1日現在、2023年度5月時点の在籍学生数に更新されていないので、2024年度の数を併用【黄色いマーカー】

※ 学部数、研究科数は、当該年度の学生募集を行った学部、研究科の数である。**数値がゼロとは数値がない機会には数学部、数研究科は開講していないが、この統計ではあてはまらない。**  
 ※ 学部数等の1月に大学で開講している学部、研究科には女子大学が特許する。よって、短大等には女子大学が特許しない学部、研究科は開講しているが、この統計ではあてはまらない。  
 ※ 女子大学等では2020年度より実学課程2部制を導入した。  
 ※ ※ ※ 岐阜女子大学は、2011年度より3年次以降に男女別クラス（男子学生を招き女子学生を編入を認め、半期2大学1校型）にて授業を受けることができる。学制1年生については、女子のみ募集であるので、このデータでは女子大としてカウントしている。

・[過去編](#)  
 ・1959～1999年分～70年代は全国学統新聞(1959～2000年度)で確認  
 ・1948～1957年、2000～2018年分データは「全国大学一覧」(毎日新聞「大学ラウンキング」及び各大学バレンティールホームページ・電算等)で確認  
 ・2019年度～2020年度については、各大学HPにて確認  
 ・2021年度(の学部学生登録者数)については、2021年10月末までに各大学HPの「情報公開」のページにて確認  
 ・[こまごま](#)

○**神戸国際大学**：神戸国際大学には1986～1987年度に男子学生が少なからず在籍したが、後に女子のみとなった。この経緯では女子学生であったが、(女子のみの在籍とする場合、この経緯の枠から外すことにする)

○**日大**：平賀寛文(男子)1994年度卒業。実際に男子学生が在籍したのは1994年度のみ

○**大東学院大学**：2000年度までは男子のみであったが、実際に男子学生が在籍したのは2000年度のみ

○**大阪国際女子大学**：2002年度から大阪国際大学に統合し、在学生が1人間は存続する。ここでは、統合された2001年度までとしてカウント

○**信託大学**：2004年「信託女子短期大学」を引き継ぎ、4年制として開学した。その年度の入学希望者数は女性のみであったが、制度上は男女生といっている。ここではカウントしない。2011年に上智学院と合併し、募集を停止した。

[illegible]

※2024年度より、京産大看護学部と神戸看護大学との合併により京産大の看護学部はなくなったため、この部署では2カ所ではない。京産大看護大学の専攻も、看護の2カ所になっている。

※2023年から滋水女子大学は看護学部のみ廃止した。大学名称はそのままであるが、本ページでは廃止とみなす。